



「大刀剣市2011」で開催された東日本大震災復興支援チャリティオークション

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

刀 劍 界

2011.11.15 VOL.2

発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentoshu.com

編集委員 朝倉 忠史 飯田 慶久
伊波 賢一 大平 将広 川島 貴夫
齋藤 隆久 齋藤 隆夫 嶋田 伸吉
野野 久正 齋藤 隆夫 高島 吉童
齋藤 義信 齋藤 隆夫 網取 浩一
生野 義信 齋藤 隆夫 松川 具
玉井 義信 齋藤 隆夫 持田 俊
深海 信彦 齋藤 隆夫 山本 均

真のチャリティー

東日本を襲った大地震と、それに伴う太平洋沿岸一帯の大津波、さらにはその影響による原子力発電施設の損壊から派生した放射能被害。多くの死傷者を数え、今なお仮設住宅や他府県での避難生活を余儀なくされている被災者の数も多く、わが国はまさに未曾有の大災害に見舞われてしまった。

被災者や、復興現場で困難な作業に当たる人たちに對する国民の関心は高く、多方面から、一日も早い復興に向けての議論が展開されていることは、報道によりの日々情報もたらされている。完全復興は巨額の資金を要し、国を挙げての取り組みが不可欠であることは論を俟たないが、この危機を目的に、民間の団体や個人の支援活動も震災発生直後から活発に行われていることも周知のとおりである。

身をもって奉仕活動を行うボランティアと、資金などを提供するチャリティーがその代表的なものであり、自発的に、報酬を求めず、復興に役立ちたいという精神は共通なものである。さて、私たち刀剣商は、今回の大災害に對してどのような支援活動を行うことができるだろうか。被災地に入って復旧作業を手伝う以外に成し得ることは、やはり自らの資金やモノを無償提供することがその手だてであると言いたい。

著名な芸能人やスポーツ選手などのチャリティー活動は、枚挙にいとまがないほど報道されているが、ここで考えさせられるのは、一般的に言われているチャリティーとは、誰も損をしないということのようにも思える。もちろん、街頭に立ち募金を呼びかけ、コンサートを行い、野球やサッカーの競技を行うさらには、著名人としては貴重な時間を失うことになり、損害が皆無であるとは言えない。しかし、それらは逐一報道され、称賛を浴びる。

著名人のチャリティー活動に参加する人たちは、その満足に對して入場料や参加費という対価を支払うが、それは決して損失ではない。

オークションと称する催しでは、著名人愛用の品は飛ぶように売れるが、もともとは用具メーカーからの提供のものであったり、今はもう使用しないものである場合も多いであろう。

このように双方が実害の少ない範囲内で行う慈善活動を今日、チャリティーの名で呼ぶことが多い中で、今回行う組合主催のチャリティーオークションは、個々の組合員の痛みと誠意の伴う真のチャリティー活動と言うことができはしないか。

名も無く、格別に裕福であるとは言えない一組合員が、自らの持ち物である商品を被災者の救済や支援の目的で無償で出品し、その売上金のすべてがこれに充たされる。どこにも報道されず、誰からも賛美されないこのような慈善行為こそ、真のチャリティーと言えはしまいか。

私たち刀剣商の社会的地位や評価に對して、私たちは常に不満である。しかし、世間の皆さんちょっと待ってくださいよ、と言いたい。私たちがナメたらあかんぜよ、と言いたい。こういう刀屋もようけおるんぜよ、と言いたい。新聞やテレビで報道されている著名人のチャリティー活動の売上金は、一体いくらだ、とも聞きたい。

私たちの今回の活動は次号の『刀剣界』に取り上げられるであろうが、気持ちにおいて、金額において、著名人に遜色を見せない結果になるであろうことは予感し得る。自費の誇りを恐れずあえて言わせてもらえば、刀屋は素晴らしい。

(深海信彦)

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録
「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円 (郵便切手可)

刀剣・刀装小道具高価買入

〒202-0022
西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

営業時間 午前9時～午後6時
定休日 毎日曜日・祝日

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

〒700-0827 岡山市北区平和町二一八
電話(086)223-2219
工場 〒700-0826 岡山市北区磨屋町七二二一
電話・FAX(086)223-2219

甲冑 刀剣 刀装具 古美術一般

福隆美術工芸

代表 **網取譲一**

〒104-0061 東京都中央区銀座二一四
TEL/FAX 03-3541-1820

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL/FAX 0494-1333067

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会 吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二丁目七番一号
電話 06(6631)2210 番
FAX 06(6644)5464 番

組合員になるには

全国刀剣商業協同組合入会案内

刀剣関係者の集まりの場や古物業者の会合などで、よく「刀剣商組合に入るにはどうしたらよいのだろう」という声を耳にします。個人営業の古美術商の多くが、社会的に認知された同業者の組合という共通基盤を得て、営業活動、情報収集、連携・協力、地位向上など一層の充実を図っていききたいと望むのは当然のことと思われる。

全国刀剣商業協同組合では従来から同業の皆さまに広く組合への加入を呼びかけています。監督官庁が警察庁であり、取り扱う品物が主に刀剣ということで、加入のハードルは決して低くはありませんが、真摯にご商売をされている方々をお待ちします。申し込み・問い合わせは事務局まで。

＜入会に必要な手続き＞
①当組合の加入資格は、公安委員会より古物営業許可を受けて刀剣・武具類の売買を行う事業者であること。
②入会申請に当たっては、現理事一名を含む当組合員(二名以上)の推薦を得ること。入会の可否は理事会に諮り決定します。

- ＜入会申請に必要な書類＞
①加入申込書
②履歴書
③古物営業許可証(写し)
④推薦状
⑤身分証明書
⑥約定書(同意書)
⑦登記簿謄本(法人の申し込みの場合)

＜組合員になると＞

承認されて組合員になると組合諸行事への参加などの特典があります。

- ①組合主催の大展示即売会である「大刀剣市」への出店
②組合主催の交換会市場への参加(別途に内規があります)
③諸懇談会・懇親会への出席
④当該官庁への具申
⑤広報誌・機関紙・資料の提供
⑥書籍・手入具・備品などの共同購入、所有者変更届申請書の頒布

＜入会時の費用＞

- ①出資金(一口二万円)
個人五口以上、十万円以上
法人十口以上、二十万円以上
②入会金 二万円
③初年度賦課金 一万二千元
④組合員表示プレート(希望者) 一万八千元

納付額合計は、個人加入の場合十二万二千元から、法人加入の場合、二十二万二千元からとなります。

※賛助会員について

当組合では、事業活動の推進に資することを目的として賛助会員制度を設けています。賛助会員の資格は、組合の趣旨に賛同し、事業活動の円滑な実施に協力・助言いただける方です。刀剣者をはじめ、刀剣界の内外に広く入会を呼びかけています。賛助会員は、毎年五千円の会費を納付していただきます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

(服部暁治)

組合こよみ

(平成23年9~10月)

- 9月5日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ校正編集会議を清水専務理事・服部理事・持田監事・齋藤隆久氏・高橋正法氏・飯田慶雄氏・宮澤琢氏・土子民夫氏で行う。
- 8日 『刀剣美術』10月号掲載広告の校正打ち合わせを行う。
- 9日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ最終色校正編集会議を清水専務理事・冥賀理事・服部理事・綱取理事・嶋田理事・朝倉理事・藤岡弘之氏・生野正氏・松本義行氏・飯田慶雄氏・土子民夫氏・小林君夫氏で行う。
- 同日 『刀剣界』第1号編集会議を深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・山田理事・冥賀理事・服部理事・綱取理事・嶋田理事・朝倉理事・玉井理事・持田監事・藤岡弘之氏・生野正氏・松本義行氏・飯田慶雄氏・新堀徹氏・宮澤琢氏・土子民夫氏で行う。
- 13日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ色校正確認作業を清水専務理事・高橋正法氏・土子民夫氏・小林君夫氏で行う。
- 同日 組合事務所にて産経新聞社、広告代理店アオバ企画と伊波・齋藤両常務理事が新聞広告の打ち合わせを行う。
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会開催。参加者60名、出来高41,796,200円。
- 20日 『刀剣界』第1号編集会議を深海理事長・清水専務理事・服部理事・綱取理事・持田監事・土子民夫氏で行う。
- 同日 町村信孝議員政策研究会に深海理事長・清水専務理事・服部理事・綱取理事出席。
- 同日 商工中金へ9月17日交換会借り入れのため、服部理事・綱取理事出向く。
- 27日 大刀剣市チャリティーオークション規約を出店者へFAX送信する。
- 28日 大刀剣市カタログを発送する。
- 30日 『刀剣界』第1号を組合員へ発送する。
- 10月3日 組合事務所にて『刀剣界』第2号編集会議を深海理事長・川島副理事長・清水専務理事・齋藤常務理事・

- 飯田理事・山田理事・冥賀理事・服部理事・綱取理事・嶋田理事・朝倉理事・玉井理事・持田監事・齋藤隆久氏・生野正氏・飯田慶雄氏・宮澤琢氏・大平将広氏・土子民夫氏・小林君夫氏で行う。
- 4日 組合古物講習会に持田監事出席。同日 『刀剣界』への広告募集案内を組合員へ発送。
- 7日 『日刊スポーツ』に大刀剣市記事広告掲載。
- 12日 『読売新聞』朝刊に大刀剣市の広告掲載。
- 13日 『産経新聞』朝刊に大刀剣市の広告掲載。
- 15日 『報知新聞』朝刊に大刀剣市記事広告掲載。
- 同日 『読売新聞』夕刊に大刀剣市の広告掲載。
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会開催。参加者72名、出来高35,272,100円。
- 同日 商工中金へ交換会借入れ保証人の件で、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・川島副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・齋藤常務理事・服部理事・綱取理事・嶋田理事が出向き署名捺印する。
- 同日 愛宕警察署宮元署長・高澤生活安全課長へ大刀剣市開催の挨拶のため、清水専務理事・伊波常務理事が出向く。
- 18日 深海理事長・清水専務理事・齋藤常務理事が警察庁生活安全局生活安全企画課・上條課長補佐を訪ね、大刀剣市の挨拶を兼ねて、種々の協議を申し入れる。
- 同日 組合事務所にてチャリティーオークション商品の確認、整理、下値付けの作業を深海理事長・清水専務理事・服部理事・高橋正法氏・小林君夫氏で行う。
- 同日 『日本経済新聞』朝刊に大刀剣市広告掲載。
- 20日 『夕刊フジ』に大刀剣市の記事広告掲載。
- 同日 『東京スポーツ』に大刀剣市の記事広告掲載。
- 27日 深海理事長・土肥副理事長・清水専務理事・伊波常務理事が愛宕警察署に出向き、大刀剣市チャリティーオークションにかかわる競り売りの届け出を提出し、受理される。

「全国美術刀剣青年会」熱海大会のご報告と御礼

代表幹事 中永 善之

長く続いた暑さもようやく落ち着いた九月二十六日、全国美術刀剣青年会の出張大会を熱海大観荘にて執り行いました。その前週には台風15号の列島通過もありましたが、当日は初秋を感じさせる快適な気候の下、正会員・特別会員・客員の方など五十名以上の方にご参加いただくことができました。交換会では、景気の低迷、ま

た三月十一日には東日本大震災があり、いろいろと心配もある中での開催でしたが、多数のご参加とお持ちいただいた名品の数々により、例年を大きく上回る出来高を頂戴いたしました。そして、出張大会ならではの温泉や宴席、翌日のゴルフコンペなども楽しんでいただき、ご参加いただいた皆さまの親睦も

と想っております。すべてにおいて円滑に、盛況のうちに終了となりましたこと、これらはひとえに本会を温かく見守ってくださった方々のご理解・ご厚情によるものと、正会員一同、心より御礼申し上げます。

本会は、「将来の刀剣商業界において公正遵法の精神をもつて明朗健全に活躍する人材を相互開発し、研修修練する」という目的に創設されたもので、小伝票書きに始まり発句・競り・通し・会計などに至るまで、会員自らがそれぞれの役割を實際に経験することにより、交換会運営を体系的に把握し研修でき、業界において貴重な組織であり、培った知識や経験は大きな糧となっております。

また、これまでに行われた勉強会や啓蒙普及のための学校訪問などの活動は、業界にとっても大きな意味のあることで、現在の、刀剣業界の第一線で活躍しておられる先輩方の多くは、本会のご出身です。先輩方が築き上げてきた歴史と伝統に恥じぬよう、今後とも健全運営を第一に、会員間の親睦と研修の場としてさらに魅力ある組織となるよう努力いたします所存でございますので、引き続き皆さまのご厚情を賜りたくお願い申し上げます。

東京五輪・女子体操で華麗な段違い平行棒を披露するチャスラフスカさん



「五輪の名花」とたたえられたチャスラフスカさん(69)には、メダルと同様に大切にしていたものがある。東京五輪の会場でファンから贈られた一振りの日本刀。冷戦に翻弄された祖国チェコスロバキア(当時)での不遇な時代、生きる心を支えた「魂」だった。

五輪の名花 チャスラフスカさん

日本刀の魂 力に

プラハ侵攻の悲劇乗り越え

「刀をもらって、すごくなつて」と、二人が大塚さんの写真を見せると「覚えていませ」と記憶をたどるように語った。チャスラフスカさんは十二日、新宿区のホテルで、刀の贈り主の故大塚隆三さんの妻・靖子さん(モ)と姉の北上弘子さん(モ)と対面した。満面の笑みを浮かべ「アリガトウ」と、日本語で感謝を伝えた。「二十年前に(急性心不全で)亡くされたのはそのころだ。」



当時の写真などを前に思い出を語る(右から)大塚隆三さんの姉・北上弘子さん、妻・靖子さん、チャスラフスカさん、武藤英明さん(円内は大塚隆三さん)

ベラ・チャスラフスカさん 1964年東京、68年メキシコ五輪女子体操の個人総合連覇を含む7個の金メダルを獲得。68年、「プラハの春」を支持する「二千語宣言」に署名した。89年にビロード革命で共産主義体制が崩壊するまで不遇だった。日本政府から昨秋、旭日中綬章を授与。

後、チャスラフスカさんの人生は激動を迎えた。チェコの民主化運動「プラハの春」にソ連が介入し、軍事侵攻したのだ。民主化運動を支持したため自由を制約

「段違い平行棒の決勝の翌日でした。日本の方が来ているというので、門のところで(刀を)直接受け取りました。私は二十二歳。当時はサムライの歴史も知りません。貴重さは時間を経るにつれ意識するようになりました。日本のことを学び『刀には魂がある』と知りました」

大塚さんは、当時二十五歳だった。福島県山都町(現在・喜多方市)から上京し、都内の大学在学中に新聞輸送の会社を創業し、高田馬場で暮らしていた。弘子さんは「夫は本当に熱心なファンでした。刀は大塚家に代々伝わるもので彼にすれば『宝物』を渡したのです」と振り返る。

刀を受け取ってから四年後、チャスラフスカさんの人生は激動を迎えた。チェコの民主化運動「プラハの春」にソ連が介入し、軍事侵攻したのだ。民主化運動を支持したため自由を制約



チェコの首都プラハで、日本刀研究会のプランカ会長(右)に、もらった日本刀を見せるチャスラフスカさん(左)＝プラハの日本刀研究会提供

47年前の贈り主遺族と対面

文・滝沢学/写真・嶋邦夫/紙面構成・岡本恵里子

され、六八年のメキシコ五輪の参加が危ぶまれた。ぎりぎりになって出国が許され、参加した大会では、濃紺のレオタードで抗議の意志を示し、四つの金メダルを獲得した。種目別で唯一、金を逃した平均台のメダル授与式では、金メダルのソ連のクチンスカヤ選手に顔を背けた。

帰国後、祖国は冷たかった。当局の盗聴や尾行など監視が続いた。心が折れなかつた理由を、チャスラフスカさんはこう話す。「東京五輪の開かれた幸せな時期を思い、それに支えられた。この刀は、私には日本の一部。共産主義体制下でも、日本から力を得ていたんです」

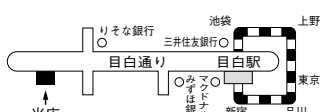
東日本大震災の復興支援で、二十一年ぶりの来日となったチャスラフスカさんは、刀の贈り主との対面を強く望んだが、手がかりは刀を受け取ったときのメモに、ローマ字で「オオツカリユウゾウ」とあるくらいだった。顔もおぼろげな記憶しかなかった。相談を受けたプラハ在住の指揮者、武藤英明さん(モ)らが、刀の鑑定や贈り主捜しを始めたことが日本の新聞に載り、それを見た大塚さんの知人が、親族に伝えた。チャスラフスカさんは「興味深いのは、大塚さんが私に刀を渡そうとした、その決心です」と話した。

刀剣・小道具・甲冑武具

創業明治十三年

飯田高遠堂

代表取締役 飯田慶久



(JR山手線目白駅下車徒歩左へ3分)

営業時間 午前10時～午後6時
定休日 水曜・土曜(日曜営業中)

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33

TEL 03(3951)3312
FAX 03(3951)3615

http://www.iidakoendo.com

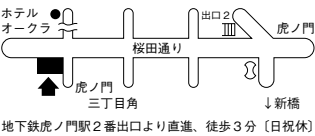
野田会 刀剣・刀装具市場 毎月三日・十九日開催

松本富夫

(株)美術刀剣松本
〒二七八一〇〇四三千葉県野田市清水一九九一
TEL 〇四(七二二)一一二二
FAX 〇四(七二二)一九五〇

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.



(株)日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1

TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂

「刀剣画報」
実寸大通信販売カタログ
年6回発行 年間購読料4,000円

〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037

http://www.taibundo.com

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先

090-8455-2222

60回までの低金利刀剣クレジットお取り扱い

〒114-0023 東京都北区滝野川7-16-6

電話 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

営業時間11時～19時
月曜日定休(祝日は営業)

代表者 高島吉童

www.premi.co.jp

● 刀剣鑑定書の始まり

絵画・書・陶磁器・道具などの古美術品には、鑑定書(折紙・極め書き)のようなものは古今あまり見られませんが、刀剣やそれに付随する小道具には室町時代から本阿弥家などが出しています。

鑑定書の態をなした現存最古のものは、室町時代末期の文明二年(一四七〇)に赤松政秀が書いたものだと言われています。その後、本阿弥家九代の光徳が豊臣秀吉の認可を受けて刀剣極め所となり「折紙」と呼ば

る。武家社会のような究極の上下社会では、刀剣について偽ったり、たぶらかしたりすることは極刑に値し、刀剣の真偽に及ぶ必要がなかったでしょう。また江戸初期ごろから本阿弥家などが極めている刀を見ても、將軍家や大名家、重職の者たち以外には持つことができない名刀がほとんどで、真偽に言及する必要はなかったと思われる。

● 刀剣の大衆化と鑑定書

現在のよう形式の鑑定書になるのは、やはり明治以後で、武家社会が崩壊して刀剣が武器

の応永備前でも入手できれば大変なことであったと、当時を知る大先輩から伺ったことがあります。

要するに、明治から昭和初期ごろまでは、一般の人々が名刀というものを持つ機会がなかったわけ、ごく限られた人たちだけで刀剣の収集がなされていたのです。従って、目利きや鑑定家はそなたたちのために働けばよかったです。鑑定書が普及する必要がなかったと言えます。

しかし、太平洋戦争が終わり、財閥も解体され民主化が進むと、お金を出しさえすれば一

取りができるのでしょうか。理由はいくつかあると思えますが、その一つに、刀剣商の間で共通した相場観があり、下取りした刀が交換会などで共通の目安で現金化できることができ、またそれによって小売りで再販することもできるからです。

終戦後から現在まで、幾度も景気の影響を受けて相場の大きな上下はありましたが、他の美術品と比べてその差が少なくところから、日本刀は不況に強いと言われてきました。これも鑑定書や下取りがあり、比較的一定した相場観があるために現金

取りができるのでしょうか。理由はいくつかあると思えますが、その一つに、刀剣商の間で共通した相場観があり、下取りした刀が交換会などで共通の目安で現金化できることができ、またそれによって小売りで再販することもできるからです。

要刀剣などの鑑定書は、業者間または刀剣愛好家の間で共通の認識をもって評価されました。これは、それを盛り立ててきた会員や業者、愛好家、刀剣をこよなく愛し協会を設立した本間薫山・佐藤寒山の両山先生や大先輩の方々など、刀剣界全体が六十年以上をかけて築き上げてきた結果であります。

を必要とするし、買う側も自信を持って購入し得るまでの目利きになる必要があります。現在のように「刀のことはよくわからないが、余裕があるから刀を一振買おう」と思う人たちには大変な障害となるでしょう。現存している刀全体の七〇八割は無銘だと思えますが、無銘

折紙

のところでないものの値段はどうなるのでしょうか。売る側の信頼や保証だけで、何も付いていない無銘を数百万円で買ってもらえるのでしょうか。コレクターが買い取りで店に持ってきた無銘を数百万円で買い取れるのでしょうか。

● 鑑定書の意義を問い返す

現在まで、われわれが相場を作ってきた刀の価値はどうなるのでしょうか。新たな刀剣鑑定組織ができたとしても、刀剣界全体の共通の認識として末端まで浸透し、取引できるようにするには何年かかるのでしょうか。

鑑定書について考える

「折紙付き」と言えば、絶対に保証できるといふ評判や評価のこと。それが刀剣の鑑定書に由来することは常識だ。では、なぜ日本刀に鑑定書が付くようになったのか。鑑定書はなくてはならないものなのか。今日における鑑定書の意義は。コレクターと刀剣商の関係を軸として、あらためて鑑定書について考える。

れる鑑定書を発行するようになりまし。ただし、現在のような真偽の鑑定というよりも、その刀に対して大判や小判などの金子による代付けが主でした。

では、現在の鑑定書のように真偽を中心としたものはいくつごろから現れたのでしょうか。

戦国時代である室町時代末期から安定した武家社会の江戸時代になると、法や秩序を徹底厳守させるために、何か大きな間違いや、いざこざ、もめ事が起きると、その責任を当事者の切腹や打ち首などの死をもって償っていました。

や武士のステータスを示す道具の役目を終えて、美術品の色合いが濃くなってからです。

それでも、明治から昭和の初期までは、まだ皇族や華族、当時現れた大財閥、または政府の高官たちが競って集めたステータス性を強く持った美術品収集の一つでした。

そのために、このような名刀を商うことを許されたのは、華族や財閥などにお入りができた本阿弥家などの鑑定家や刀職者だけで、一般愛好家相手の刀剣商には鎌倉期や南北朝期等の名刀を扱う術もなく、室町初期

一般の人でも刀剣を入手できるようになります。刀剣は大衆化し、書画や茶道具などと一緒古美術品として流通し始めました。そうなる、刀剣の商品価値を測る物差しとして、鑑定書が必要になってくるわけ。

● 共通の価値観と

他の美術品と比べて、刀剣は売買で大きな違いがあります。それは下取りです。刀剣以外の古美術品の取引で、以前販売した品物を下取りしたという話を聞いたことがあります。

それでは、刀剣類ではなぜ下

での買い取りができることが、要因の一つと思われる。

日本刀は、他の美術品と比べて資産価値も高く、昭和四十年代初頭までは不動産などと並んで、どの銀行でも担保物件として通用していました。

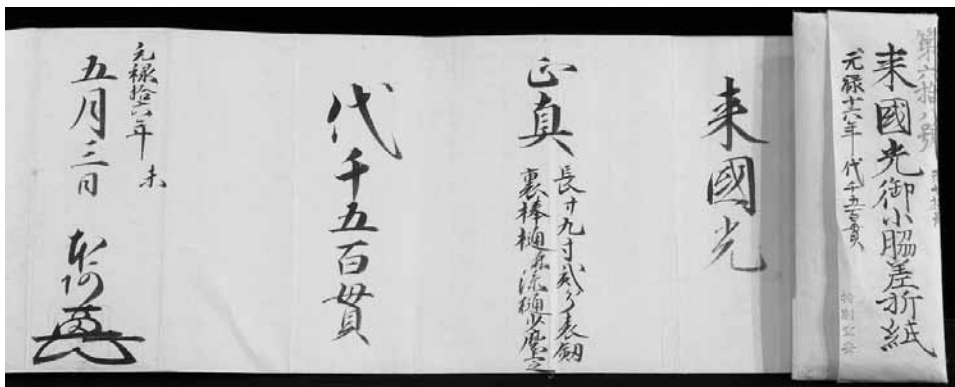
また、日本刀は美術品の中で唯一「刀剣学」として成立しており、他の美術品よりはるかに高い精度で時代や真贋を論理的に実証することもできます。

昭和になって、さまざま組織や鑑定家が鑑定書を出してきましたが、その中でも財団法人日本美術刀剣保存協会発行の重

もし鑑定書なかりせば
それでは、今まで流通し、業者やコレクターなどがそれなりに認めてきた鑑定書の権威と信用が失墜したり、鑑定書そのものが存在しなくなったとしたら、刀剣界に与える影響はどうでしょうか。

六十年前の鑑定書がなかった時代を知っているコレクターや業者はほとんどいないと思えますが、鑑定書なしに売買をするのは、買う側も売る側も戸惑うでしょう。何年もかけて相当の信頼関係を構築しないと、数百万円もの取引は大変難しいことのように思われます。

明治から昭和初期にかけて一部の愛好家が、鑑定家や目利きを雇い、あり余る私財を投じて収集するには、鑑定書がなくては何の問題もなかったでしょう。そうでないとする、業者は鑑定家並みの知識や判断能力



刀は確かに真偽は問われないものの、製作された時代や国、保存状態や価値が大きく変わってしまいます。実際、同じ極めでも重要刀剣の無銘は数百万円、そうでないものはその何分の一というのが現状です。

重要刀剣の指定制度がなくなってしまうたら、そうであるも

鑑定の結果に不満や不服の声も聞かれますが、それは鑑定書というものが現れたときから現在まで、鑑定をしてきた組織に付いて回る問題であります。われわれ刀剣商には、むしろ刀剣界全体が認め、安心して売買できるための鑑定書が今後も存続していくかどうかの方が大きな問題ではないでしょうか。